

2018年度 広域ヨーロッパ研究センター活動報告

講演会・研究会・ワークショップの開催

共通テーマ: 広域ヨーロッパと公共性・公共圏・公共(“Öffentlichkeit”, public sphere, and “res plebeia” in Wider Europe)

特別講義「トルコの視点から現代国際情勢について考える」

講師: ギュン・クット教授 (ボアジチ大学国際関係学部)

日時: 2018年6月27日(水) 13時~14時30分、4限(14:40~16:10)

場所: 国際関係学部棟 3108 講義室

◇第1部

基調講義: Professor Gün Kut, “The Cold War and Turkey’s intra-NATO Dispute”

パネリスト: 六鹿茂夫氏 (静岡県立大学名誉教授、一般財団法人霞山会事務局長・主席研究員)

“The Approaches of the Three Littoral States in the Black Sea toward Wales and Warsaw Summits on NATO’s Defense and Deterrence Strategy”

ディスカッサント: 阿部純一氏 (一般財団法人霞山会常任理事)

◇第2部

講義: Professor Gün Kut, “Turkish Foreign Policy since WWI: Regional Power Politics in a Changing World”

ディスカッサント: 阿部純一氏・六鹿茂夫氏

特別講義「翻訳人と通訳人——天賦の才? 努力の結果?——」

講師: イサベル・アルコネロ氏 (賢王アルフォンソ 10 世大学講師)

日時: 2018年7月23日(月)

場所: 一般教育棟 2108 講義室

特別講義「テレビドラマ『フランスの村』が描く第二次世界大戦期のフランス」

講師: アンリ・ルソー氏 (現代史研究所所長)

日時: 2018年10月24日(水) 16時20分~17時50分

場所: 国際関係学部棟 3317 講義室

特別講義「戦争博物館で比較するヨーロッパと東アジア」

講師: ファルク・ピンゲル氏 (ゲオルク・エッカート国際歴史教科書研究所元副所長)

日時: 2018年10月29日(月) 16時20分~17時50分

場所: 国際関係学部棟 3316 講義室

特別セミナー「ヨーロッパの大学における国際交流」

講師: オスカル・ラモス・アロンソ氏 (バリャドリード大学商学部准教授、同アジア研究所所長)

日時: 2018年11月19日(月) 12時15分~13時

場所: 国際関係学部棟共同研究室 (3413 室)

特別講義「<宗教活動の歴史を通じて日露関係を考える>東方正教会のミッションと非正教アプローチ——明治時代の記録から分かる日本における正教会活動——」
講師：オリガ・プサノブァ氏（オクスフォード大学大学院生）
日時：2018年12月10日（月）14時40分～16時10分
場所：国際関係学部棟 3106 講義室

特別講義「京（みやこ）にフランスあり！ 関西日仏学館の草創期」
講師：立木康介氏（京都大学人文科学研究所准教授）
日時：2018年12月19日（水）9時～10時30分
場所：国際関係学部棟 3315 講義室

広域ヨーロッパ研究センター後援「『羽衣』ビデオ・コンテスト」
『羽衣』ドイツ語、フランス語、スペイン語テキストの朗読コンテスト
主催：『羽衣』ビデオ・コンテスト実行委員会
日時：2018年12月19日（水）14時30分～16時10分
場所：一般教育棟 2106 講義室

特別講義 “The New Protectionism - Is Free Trade Dead?”
講師：ティム・ゴイトケ（ブレーメン経済工科大学教授）
日時：2019年1月8日（火）14時40分～16時10分
場所：国際関係学部棟 3110 講義室

WERC 公式ウェブサイト(<http://werc.u-shizuoka-ken.ac.jp>)の運営

WERC の公式ウェブサイトの内容の充実をはかり、閲覧者に提供するサービス向上につとめた。WERC 研究員に関連する情報を速報し、特別講義や講演会・セミナーの告知を行なった。また、過去 10 年間の活動の記録資料として、センター活動報告書を公開した (<https://werc.u-shizuoka-ken.ac.jp/profile20100310.html>)。「広域ヨーロッパ研究ツールの開発」と連携しつつ、European Studies 共通テキストの資料編を増補した。

広域ヨーロッパ研究ツールの開発

6 年計画の広域ヨーロッパ研究ツール開発を開始し、テーマ設定のための資料集、先行研究を検討するためのテキスト、文献・資料等の所在のガイドブック、議論のまとめ・洗練をうながすための報告会、執筆のためのノウハウ集などの作成を目指し、広域ヨーロッパ研究センターが研究活動の柱としてきた、1) 広域ヨーロッパを構成する個々の国家や地域、2) EU の拡大と統合／ガバナンス、3) 広域ヨーロッパの歴史的形成過程、にもとづく検討を開始する。その基盤として、ひきつづき、センター内の研究会を開催し、研究員それぞれの専門領域の研究動向と今後の展望、学部・研究科の教育における広域ヨーロッパ研究の成果の反映について情報の交換と共有につとめた。テーマ資料集にとりあげる内容を検討する材料として、研究員のかかわった過去 5 年ほどの修士論文、卒業論文のタイトルを集約した。

教育関連資料の提供

「広域ヨーロッパ研究ツールの開発」と連携しつつ、広域ヨーロッパの複眼的な理解を軸にした「European Studies 関連（授業）科目」のウェブ版を修正した。学生の学習成果を発表する場として、「合同ゼミ学生発表会 2019」を運営した（2018年12月11日）。

「内なる国際化」および協定校との学術交流の推進

留学生と研究員・本学部学生との交流の強化と拡大に向けて、センターが開催する研究会やセンター研究員による講義等での交流や留学生支援を充実させ、協定校との学術交流を推進した。

- ・ バリャドリード大学セゴビアキャンパスで開催された「イベロアメリカ文学環境批評学会」における発表（Congreso Internacional “Viajes, viajeros y caminos: una visión ecocrítica”（国際学会「旅、旅人そして道：環境批評の視点から」）、イベロアメリカ文学環境批評学会（la Asociación Iberoamericana de Literatura y Ecocrítica）・スペイン国立バリャドリード大学共催、2018年6月20～22日、於 バリャドリード大学・セゴビアキャンパス、スペイン）。
<http://www.asociacionecocritica.org/congreso-internacional-literatura-ecocritica-2018/>
- ・ “The Search for Meaning: Journey as a Narrative Structure in War Movies”, Matthias Pfeifer.
- ・ “El texto literario como recurso turístico: el Pinar de Miho (Miho no Matsubara) y la leyenda del Vestidoalado (Hagoromo)”（オンライン発表、観光資源としての文学：三保の松原と羽衣伝説）、Sayaka SUZUKI y Naoka MORI（発表者）。
- ・ ボアジチ大学と参加しているメヴラナ・プログラムによる助成の獲得をめざし、申請の準備をすすめた。
- ・ 2018年12月、小窪研究員がボアジチ大学を往訪し、Mehmed Ozkan 学長、Zeynep Atay 国際交流担当副学長を訪問し、また同大学の教員たちと意見交換を行なった。

WERC 研究会

以下の2回を開催した。

- ・ 剣持久木「公共史 Public history の射程—ヨーロッパにおける歴史認識越境化と東アジア—」（2018年12月20日）
- ・ 石川義道「ガスパイプラインを巡る EU・ロシア間の紛争と WTO」（2019年1月30日）

【参考】公開された研究成果（一部、五十音順）

◇石川 義道

Post-Buenos Aires: Tackling Fisheries Subsidies Contributing to IUU Fishing through Unilateral Trade Measures?, EJIL: Talk! (January 2018).

◇上野 雄史

「リスク分担型企業年金と企業・従業員のリスク回避行動」『月刊 金融ジャーナル』, 2018年7月, 52-53頁.

◇梅本 哲也

『米中戦略関係』（千倉書房、2018年）.

「北朝鮮核・ミサイル問題の展開と米国の選択肢」『国際問題』第670号（2018年）.

◇栗田 和典

「1832年解剖学校規制法の成立—制定法の変遷の家訓員と問題点の整理—」『国際関係・比較文化研究』第17巻2号（2019年）, pp. 27-41.

◇剣持 久木

——（編）『越境する歴史認識—ヨーロッパにおける公共史の試み』（岩波書店，2018年）.

——（編）『よくわかるフランス近現代史』（ミネルヴァ書房，2018年）.

◇小谷 民菜

「ダゲレオタイプの眼—芸術に関するハイネの若干の考察について—Das daguerreotypische Auge—
—Zu einigen Betrachtungen Heines über die Kunst—」『Héliogramme 2018』（学習院大学人文科学研究
所共同研究プロジェクト「フランス文学と写真」2018年度研究成果報告書，2019年），13～24頁.

◇森 直香

——・水野かほる・高畑幸・坂巻静佳「法廷通訳の仕事に関する実態調査—2012年と2017年の
調査から—」『比較文化研究』（日本比較文化学会）131号（2018年），pp. 1-11.

◇米山 優子

木村正俊（編）『ケルトを知るための65章』（明石書店，2018年）.